

パブリック・サービス研究分科会

講義年月日 2010 年 1 月 25 日 (月) 午後 4 時 10 分～4 時 55 分

講演者 女子栄養大学出版部 湯浅俊夫 氏

テーマ「女子栄養大学出版部について」

講演内容

1. 大学出版部の役割と位置づけ

- ・ 教育科目ごとにすぐれた教科書を編集し、出版すること
- ・ 優秀な研究者を発掘し、高度な学術書を編集し出版すること
- ・ 教育者・研究者としての大学人の社会に向かっての発言を、読みやすく判りやすい啓蒙書として編集し出版すること

では「女子栄養大学出版部」の役割は？

→ 教科書（参考書）の編集、高度な学術書の刊行、社会への啓蒙書の刊行

では「女子栄養大学出版部」の位置づけは？

→ 学園の一部門として特に広報的な役割を期待されている（学園の名称を冠した書籍の刊行）、また利益貢献

2. 民間出版会社との相違点

- ・ 大学出版部だからといって特別な利点があるわけではない（逆に敬遠される場合もある）
- ・ 大学の教員全てが女子栄養大学出版部から出版物を出すわけではない（他出版社と教員個々の関係が別途存在する）
- ・ 「出版元が大学であるだけに内容が固そう」というイメージ
- ・ 大学の名の下に刊行している分、情報の裏づけが必須（＝自由に動ける幅が少なくなる・安易にトレンドに乗ることができない）
- ・ 大学が後ろ立てしてくれている、という甘え

しかし、↑を逆に強みとして捉えることもできる

- ・ マーケティング活動に有利
 - 「大学」の出版部だからこそできることがある
 - 広告を掲載するメリットが保証できる

(例) 大学教員（専門家）、整った設備や施設、卒業生...これらをネットワーク化！

3. 出版社側から見た図書館への要望

- ・ 図書館という受け皿がなくなったら...？

→ 出版そのものが成立しなくなってしまう刊行物も多くある

- 知の体系化
- 出版社は各社の事情で商品売る（＝売れ筋のいいものを中心に発行・刊行する）ため、結果として全分野をカバーして網羅的に商品を刊行することがない
 - 情報の収集という立場から、図書館として「この分野が足りない」というところを教えてほしい（各々の出版社の刊行物を収集・体系化）

4. 電子 Book の普及を出版社としてはどのように意識しているのか

- なかなか具体的な将来モデルや方向性を掴みきれていない（動向を探っている段階）
- 電子的データ等を今以上に有効活用して市場の需要に応えていきたい